

第Ⅱ章

自己有用感を高めるには

自己有用感と教育的環境の分析結果から、「クラスでの自己有用感」を高めるための手だてを中心に紹介します。調査協力校の中から6校の先生方に伺った具体的な取組を参考にして、学校種別に事例を掲載しました。

子どもの自己有用感を高める四つのポイント

1. 子どもをよく見て、その子に応じて褒めましょう。
2. 子どもの話をじっくり聴いたり、子どもに話し掛けたりしましょう。
3. 一人一人に活躍の場を与えて、見守り、やり遂げさせ、達成感を味わわせましょう。
4. 子ども同士が認め合う場を設定するなど、人間関係づくりを支援しましょう。

質問紙調査を実施して、集団及び個人の傾向を捉えましょう。

1 小学生の自己有用感を高めるには

(1) 「クラスでの自己有用感」を高める手がかり

児童にとって、クラスは学校生活の基盤であり、ここで育まれる「クラスでの自己有用感」は、「望ましい意識や行動」との関連が最も強く、重要な自己有用感です。ここでは、「クラスでの自己有用感」に注目し、高める手がかりについて述べていきます。

「質問3」で調べた「教育的環境・関わり方」(p64 参照)の結果と、「質問1」中の「クラスでの自己有用感」の結果との相関分析等により、効果が強いと考えられる「教育的環境や関わり方」を抽出し表 2.1 にまとめました。

表 2.1 小学生の「クラスでの自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」

| 小学生 | 質問3の質問項目 (No) |
|-----|--|
| 1位 | (11)先生は授業の中でクラスの人同士がよいところを互いに認め合う場面をつくっている |
| 2位 | (15)先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる |
| 3位 | (14)先生の方からわたしに話しかけてくれる |
| 4位 | (02)友だちは話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる |
| 5位 | (19)学校では授業や行事で掲示物や作品などを協力してせい作する |
| 6位 | (01)友だちの方からわたしに話しかけてくれる |
| 7位 | (18)学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある |
| 8位 | (26)家の人は学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる |
| 9位 | (05)クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している |
| 10位 | (07)先生はわたしたちに計画を立てさせて取り組ませている |
| 11位 | (24)家の人はわたしと将来のことについて話をする |
| 12位 | (21)学校では地域の人のためになる活動をする |
| 13位 | (22)学校では先生同士が協力している |
| 14位 | (10)先生は授業の中でクラスの人同士が協力する時間をとっている |
| 15位 | (16)先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる |
| 16位 | (04)クラスはルールを守るクラスだ |
| 17位 | (09)先生は授業の中でクラスの人同士で教え合う時間をとっている |
| 18位 | (06)先生はわたしたちに目標を決めさせて取り組ませている |
| 19位 | (12)先生は授業の中でクラスの人がやりとげるまで見守ってくれる |
| 20位 | (08)先生はみんながよりよく学校生活がおくれるように話し合いの時間をとっている |
| 21位 | (29)住んでいる地域には積極的に参加したい行事がある |
| 22位 | (25)家の人は読書をすすめる |
| 23位 | (28)家の人は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる |
| 24位 | (23)家の人はわたしに時間を守ることが大切だと言う |
| 25位 | (20)学校ではクラブ部活動以外で違う学年の人と一緒に活動する |
| 26位 | (30)住んでいる地域には知らない子どもに注意をする大人がいる |

※網掛の項目は、間接的に関係していると考えられるもの

小学生の「クラスでの自己有用感」を高めるには、子ども同士を互いに協力させて取り組ませたり、子どもが活躍できる場を設定したりすることで、子ども同士が認め合う雰囲気をつくり、教師も子どもが輝く姿を見逃さず、認め褒めることが大切です。

小学生は、効果が強いと認められる項目数が中学生や高校生に比べて多いことが特徴です。クラスの環境や先生や友達の関わり方以外にも、家の人の関わりや地域の環境も大きく影響していることが分かります。小学生は、クラス以外の場面でも、様々な人と関わらせたり子どもが活躍できる体験の場を増やしたりすることが、自己有用感を高めるのに有効に働くと考えられます。

(2) クラスでの自己有用感を高める手立ての例

ここでは、小学生の「クラスでの自己有用感」を高めるのに有効であると考えられる事例を紹介します。

事例① 時間をかけて頑張った事柄について、認め合う場面をつくる

A小学校の6年生が総合的な学習の時間に、「ゆめ実現プロジェクト」として、個人研究を行った。就きたい職業や興味をもっていることについて調べる活動である。図書やビデオ、インターネットでの調べ学習、その分野で活躍している人へのインタビュー、社会体験の学習などを通して、分かったことや感じたことを資料としてまとめ、発表会を行った。

発表会后に相互評価の時間を設定し、生活班の友達によい点を中心としたメッセージを書くことを伝えた。すると、「すごく頑張ったから、みんなにメッセージを書きたいな。」と言って生活班以外の友達に書く児童が出てきた。この動きはクラス全体に広まり、ほとんどの児童が、全員の作品にメッセージを贈った。教師は、互いに認め合える心のすばらしさに感動したことを、子どもたちに伝え賞賛した。まとめの自己評価では、「みんなに励まされて、やる気が大きくなった。」「がんばったことと、みんなのメッセージが宝物」などの記述が見られた。

関連する質問：「(11)先生は授業の中でクラスの人同士がよいところを互いに認め合う場面をつくっている」

事例② 縦割り班活動で協力して活動する場をつくる

B小学校では、異年齢集団による活動が盛んである。月に1度、縦割り班によるふれ合い遊びを行っている。また、6月の児童会活動では、校内ウォークラリー大会を実施している。ふれ合い遊びと同じ班編成で、チェックポイントで出すクイズやゲームを考えたり、班の旗をつくったりすることにより、仲間意識が高まり主体的に活動に参加するようになる。6年児童は、リーダーとしての責任を自覚し、下級生に優しく接しながら班をまとめようとし、低学年児童は6年児童に信頼を寄せるとともに、「学年が進んだら下級生から頼られるようになりたい。」と感じている。教師は、低学年児童が班の活動に溶け込めるように支援したり、自分の役割を自覚できずに行動してしまう児童に対しては指導したりするなど、リーダーの力量に応じてサポートする。

このような活動の結果、学年を越えたつながりができ、休み時間に他学年の友達と遊んだり、朝の読書の時間に6年児童が1学年の教室で読み聞かせをしたりするなど、自ら関わろうとする意欲が見られるようになった。教師は、日常の活動につなげている子どもの活動を大いに賞賛している。

関連する質問：「(19)学校では授業や行事で掲示物や作品などを協力してせい作する」

事例③ 子どもの輝く姿を逃さずに、温かい言葉で本人に伝える

C小学校では、学力向上を目指して、家庭での自主学習に取り組ませている。6学年担任のA教諭は、毎日提出される自主学習ノートに、コメントを書いている。

一般的には、学習の方法や学習内容についてのコメントをするが、この教諭は、一日の学校での様子をよく見て、子どもが頑張っていたことや、友達と協力していたこと、友達の手助けをしていたことなど、子どもが生き生きとしていた場面を捉えて、温かいコメントを書いている。例えば、友達と打ち解けて話すことが少ない子どもが、週に一度のクラスで遊ぶ昼休みに、楽しそうに遊んでいた姿を見て「昼休み楽しかったね。〇〇さん、すごく、いい笑顔だったよ。クラスみんなが仲良く過ごしているのを見ていると、うれしいなあ。」といった言葉を投げかける。

このように、個に応じた言葉かけを心掛けていると、日常の会話でも、子どもと言葉のキャッチボールがしやすくなる。子どもは、「先生は、ほめてほしいと思うことをほめてくれる」「先生の方から私に話かけてくれる」という気持ちになり、先生から大切にされている価値のある一員だと思えるようになると思われる。

関連する質問：「(15)先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる」
「(14)先生の方からわたしに話しかけてくれる」

事例④ 学習形態の工夫（ジグソー学習）で一人一人の学びを生かす

D小学校では、思考力、表現力を高めることを目指して、次のようにジグソー学習を取り入れている。

| | |
|--------------|------------------------------|
| 1 学習課題の提示 | 生活班(1,2,3班)内で、学習課題を分担する。 |
| 2 課題解決の場面 | ジグソー班(A,B,C班)で、課題を解決する。 |
| 3 解決方法の説明の場面 | 生活班に戻り、 <u>課題解決の方法を説明する。</u> |
| 4 共有化の場面 | 学級全体で、それぞれの解決法を関連付ける。 |

解決方法の説明の場面では、ジグソー班で学習した解決方法を、班の代表として生活班の友達に伝える。紹介する課題については、自分だけが詳しく知っているため、責任をもって伝える必要性が生じ、一人一人が欠くことのできない存在になっていく。グループ全員の働きによって課題解決を成し遂げるため、連帯感が高まり、互いの学びを認め合うことにもつながっている。



関連する質問：「(05)クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している」

【参 考】

◇先生との関係における自己有用感を高める手がかり

小学生の「先生との関係における自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」は表 2.2 のとおりです。

表 2.2 小学生の「先生との関係における自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」

| 順位 | 質問 3 の質問項目 (No) |
|------|---|
| 1 位 | (15) 先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる |
| 2 位 | (14) 先生の方からわたしに話しかけてくれる |
| 3 位 | (11) 先生は授業の中でクラスの人同士がよいところを互いに認め合う場面をつくっている |
| 4 位 | (16) 先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる |
| 5 位 | (12) 先生は授業の中でクラスの人がやりとげるまで見守ってくれる |
| 6 位 | (04) クラスはルールを守るクラスだ |
| 7 位 | (19) 学校では授業や行事で掲示物や作品などを協力してせい作する |
| 8 位 | (08) 先生はみんながよりよく学校生活がおくれるように話し合いの時間をとっている |
| 9 位 | (22) 学校では先生同士が協力している |
| 10 位 | (10) 先生は授業の中でクラスの人同士が協力する時間をとっている |
| 11 位 | (26) 家の人は学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる |
| 12 位 | (06) 先生はわたしたちに目標を決めさせて取り組ませている |
| 13 位 | (07) 先生はわたしたちに計画を立てさせて取り組ませている |
| 14 位 | (18) 学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある |
| 15 位 | (24) 家の人はわたしと将来のことについて話をする |
| 16 位 | (21) 学校では地域の人のためになる活動をする |
| 17 位 | (09) 先生は授業の中でクラスの人同士で教え合う時間をとっている |
| 18 位 | (05) クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している |

※網掛の項目は、間接的に関係していると考えられるもの

教師が、褒める、話し掛ける、話を聞く、互いに認め合う場面をつくるなど、一人一人を大切にした学級経営をすることが有効です。

表 2.2 では、「先生との関係における自己有用感」との相関を示しており、当然教師の関わり方が上位に挙がっています。しかし、それだけではなく「(04) クラスはルールを守るクラスだ」「(26) 家の人は学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる」「(24) 家の人はわたしと将来のことについて話をする」などのクラスの雰囲気や家の人の関わりも、「先生との関係における自己有用感」を高めることに影響していることが分かります。



【参 考】

◇家庭での自己有用感を高める手がかり

小学生の「家庭での自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」は、表 2.3 のとおりです。

表 2.3 小学生の「家庭での自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」

| 順位 | 質問3の質問項目 (No) |
|-----|------------------------------------|
| 1位 | (28)家の人には話を聞いてほしいときには話を聞ってくれる |
| 2位 | (26)家の人には学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる |
| 3位 | (24)家の人にはわたしと将来のことについて話をする |
| 4位 | (02)友だちは話を聞いてほしいときには話を聞ってくれる |
| 5位 | (23)家の人にはわたしに時間を守ることが大切だと言う |
| 6位 | (15)先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる |
| 7位 | (18)学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある |
| 8位 | (25)家の人には読書をすすめる |
| 9位 | (19)学校では授業や行事で掲示物や作品などを協力してせい作する |
| 10位 | (21)学校では地域の人のためになる活動をする |
| 11位 | (29)住んでいる地域には積極的に参加したい行事がある |
| 12位 | (01)友だちの方からわたしに話しかけてくれる |
| 13位 | (05)クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している |
| 14位 | (11)先生は授業の中でクラスの人同士がよいところを認め合う場をとる |

※網掛の項目は、間接的に関係していると考えられるもの

「家庭での自己有用感」の高さと相関が強いのは「(28)家の人には話を聞いてほしいときには話を聞ってくれる」という質問項目であり、家族の受容的な態度が大切であることが分かります。また、「(26)家の人には学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる」「(24)家の人にはわたしと将来のことについて話をする」「(5)家の人にはわたしに時間を守ることが大切だと言う」などの質問項目も相関が強いことから、子どもの学習や将来のこと、日々の生活の向上に対して家族が関心をもつこと、指導すべきことは指導することなどが重要であることが分かります。

また、「家庭での自己有用感」の高さは、「(02)友だちは話を聞いてほしいときには話を聞ってくれる」や、「(18)学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある」「(29)住んでいる地域には積極的に参加したい行事がある」など、友達の間や学校、地域の環境からも、間接的に影響を受けていると考えられます。

このことから、自己有用感を高めるには、学校と家庭と地域が相互に連携して、子どもを見守り育てていくことが大切であることが分かります。



2 中学生の自己有用感を高めるには

(1) クラスでの自己有用感を高める手がかり

生徒にとって、クラスは学校生活の基盤であり、ここで育まれる「クラスでの自己有用感」は、「望ましい意識や行動」との関連が最も強く、重要な自己有用感です。ここでは、「クラスの自己有用感」に注目し、高める手がかりについて述べていきます。

「質問3」で調べた「教育的環境・関わり方」(p64 参照)と、「質問1」中の「クラスでの自己有用感」との相関分析等により、効果が特に強いと考えられる「教育的環境や関わり方」を表2.4にまとめました。

表 2.4 中学生の「クラスでの自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」

| 中学生 | 質問3の質問項目 (No) |
|-----|-------------------------------|
| 1位 | (05) クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している |
| 2位 | (02) 友だちは話を聞いてほしいときには話を聞ってくれる |
| 3位 | (01) 友だちの方からわたしに話しかけてくれる |
| 4位 | (04) クラスはルールを守るクラスだ |
| 5位 | (15) 先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる |
| 6位 | (14) 先生の方からわたしに話しかけてくれる |
| 7位 | (18) 学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある |

中学生の「クラスでの自己有用感」を高めるには、「(05) クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している」「(15) 先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる」「(14) 先生の方からわたしに話しかけてくれる」など、生徒に活躍の場を与えて、その活躍を教師が賞賛して認め励ますことが大切です。また、「(02) 友達は話を聞いてほしいときには話を聞ってくれる」「(01) 友達の方からわたしに話しかけてくれる」「(04) クラスはルールを守るクラスだ」などの質問項目も相関が強いことから、教師には、好ましい人間関係が築けるように支援すること、規範意識の高い学級づくりをすることなどが求められます。

(2) クラスでの自己有用感を高める手立ての例

ここでは、中学生の「クラスでの自己有用感」を高めると考えられる事例を紹介します。

事例⑤ 生徒を生かし帰属意識を高め、自信をもたせる

E 中学校では小規模校のよさを生かして、教員が「生徒に活躍の場」と「互いに認め合う場」を与えることを目標に様々な仕掛けをしている。

例えば、地域の敬老会の行事に、学校を挙げて参加し、一人一役を受けもって活動している。受付や合唱などの出し物、募金活動、バザーにおける販売補助などを地域の方々と協力して行う。生徒は事前に、お年寄りの立場に立って会場内の安全点検を行い、教師の支援を受けながら自分たちで段差を小さくする作業を行うなど、お年寄りに安心して過ごし、楽しんでもらえるために役立つことを考えて活動している。地域の活動に貢献することを通して、高齢者の方や地域の方から労いや感謝の言葉をもらうことで、生徒の自信や地域社会や学校に対する帰属意識が高まっている。

関連する質問: 「(05) クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している」

事例⑥ 生徒との信頼関係を深め、困っているときには、そばに寄り添う

F中学校では校内研修で、生徒のよさや可能性を生かす学校づくりのために、「生徒の様子をよく見て、声を掛けよう」ということを確認した。学級担任は、朝、教室で生徒を迎えるように心掛け、学級の様子を観察し、生徒に声を掛けるようにしたり、日記にコメントを書いたりして、生徒理解に努めている。

F教諭は、体育祭のダンスのリーダーから、日記の中で「みんなの気持ちがばらばらで、練習がうまく進まず悩んでいる。」と打ち明けられた。F教諭は「Aさん、みんなをまとめようと頑張ってくれて、ありがとう。Aさんの頑張りは、いつも見えていますよ。」と、励ましの言葉を贈った。そして、その日の放課後の練習では、Aさんの近くで練習の様子を見守った。教諭が見ていることもあり、他の生徒はAさんに協力して練習したため、ダンスの全体像が見えてきた。この日をきっかけに、クラスがまとまり、生徒達が積極的に意見を出し合い互いの動きのよさなどを褒めながら練習をするようになった。

ダンスのリーダーとして、みんなをまとめることができたAさんは、友達から認められた喜びと壁を乗り越えた自信により、学校生活に一層前向きに取り組んでいる。

関連する質問：「(14)先生の方からわたしに話しかけてくれる」

事例⑦ 学校行事のスローガンを踏まえて個人目標を設定させる

G中学校では、学校行事に際して、全校のスローガンを作成させるとともに、個人の目標を設定させ、教室や廊下に掲示している。

スローガンは、全校生が団結して取り組むことを目的として、体育祭、合唱コンクール、文化祭について生徒会が中心に作成している。

生徒各自には、生徒会が作成したスローガンをもとにして、個人の目標を考えさせ、廊下に掲示し、意識化を図っている。

行事終了後には、振り返りも記入させる。

生徒は目標に向かって努力することで、学校全体に貢献することにつながるの、集団の一員としての存在感を獲得している。

| | | |
|---|--|---|
| <p>振り返り 次の種目の準備物を、分担表を観ながらグループの友達と確かめていたので、素早く準備ができた。全力で走っていたら、先生に「見ていて気持ちがいいね。」と声をかけられた。</p> | <p>目標 準備の仕事は素早く行い、体育祭がスムーズに進行できるようにする。</p> | <p>「グラウンドに広げられパワー！ 走跳投躍！一人一人が主人公！」 二年三組(〇〇〇〇)</p> |
|---|--|---|

関連する質問：「(18)学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある」

【 参 考 】

◇先生との関係における自己有用感を高める手がかり

中学生の「先生との関係における自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」は表 2.5 のとおりです。

表 2.5 中学生の「先生との関係における自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」

| 中学生 | 質問 3 の質問項目 (No) |
|------|---|
| 1 位 | (15) 先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる |
| 2 位 | (16) 先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる |
| 3 位 | (14) 先生の方からわたしに話しかけてくれる |
| 4 位 | (12) 先生は授業の中でクラスの人がやりとげるまで見守ってくれる |
| 5 位 | (11) 先生は授業の中でクラスの人同士がよいところを互いに認め合う場面をつくっている |
| 6 位 | (13) 先生は授業の最後に学習した内容を振り返ったりまとめたりする |
| 7 位 | (22) 学校では先生同士が協力している |
| 8 位 | (06) 先生はわたしたちに目標を決めさせて取り組ませている |
| 9 位 | (07) 先生はわたしたちに計画を立てさせて取り組ませている |
| 10 位 | (09) 先生は授業の中でクラスの人同士で教え合う時間をとっている |
| 11 位 | (10) 先生は授業の中でクラスの人同士が協力する時間をとっている |

思春期を迎えた中学生に対しては、教師は生徒から適度に距離を置き、生徒が褒めて欲しいと思う事柄を褒めたり、生徒が話を聞いて欲しいと思うときに話を聞いたりすることで、「先生との関係における自己有用感」は高まると考えられます。教師は生徒と適切に関わるために、それぞれの生徒の個性や能力などを把握した上で、全ての生徒を見守り続け、生徒の状態に応じてタイミングよく声を掛けることが求められます。

◇家庭での自己有用感を高める手がかり

中学生の「家庭での自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」は表 2.6 のとおりです。

表 2.6 中学生の「家庭での自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」

| 中学生 | 質問 3 の質問項目 (No) |
|-----|------------------------------------|
| 1 位 | (28) 家の方は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる |
| 2 位 | (26) 家の方は学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる |
| 3 位 | (01) 友だちの方からわたしに話しかけてくれる |
| 4 位 | (02) 友だちは話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる |
| 5 位 | (27) 家の方は大切なことを守らないときにはきびしくしかけてくれる |
| 6 位 | (24) 家の方はわたしと将来のことについて話をする |
| 7 位 | (04) クラスはルールを守るクラスだ |
| 8 位 | (25) 家の方は読書をすすめる |

※網掛の項目は、間接的に関係していると考えられるもの

家族が、学習や進路について関心をもつこと、優しさと厳しさの両面を備えて接することが、「家庭での自己有用感」を高めます。

また、クラスの雰囲気や友達との関係も「家庭での自己有用感」に影響を与えることが分かります。

3 高校生の自己有用感を高めるには

(1) クラスでの自己有用感を高める手がかり

生徒にとって、クラスは学校生活の基盤であり、ここで育まれる「クラスでの自己有用感」は、「望ましい意識や行動」との関連が最も強く、重要な自己有用感です。ここでは、「クラスの自己有用感」に注目し、高める手がかりについて述べていきます。

「質問3」で調べた「教育的環境・関わり方」(p64参照)と、「質問1」中の「クラスでの自己有用感」との相関分析等により、効果が特に強いと考えられる「教育的環境や関わり方」を表2.7にまとめました。

表 2.7 高校生の「クラスでの自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」

| 高校生 | 質問3の質問項目 (No) |
|-----|---|
| 1位 | (01) 友だちの方からわたしに話しかけてくれる |
| 2位 | (02) 友だちは話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる |
| 3位 | (05) クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している |
| 4位 | (15) 先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる |
| 5位 | (18) 学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある |
| 6位 | (11) 先生は授業の中でクラスの人同士がよいところを互いに認め合う場面をつくっている |
| 7位 | (16) 先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる |

中学生と同様に、活躍の場があり、それを教師が賞賛すること、友達との好ましい人間関係が形成されていることが、高校生の「クラスでの自己有用感」を高めます。思春期を経て、教師に対して素直に向き合うことができるようになってくる高校生の時期には、「(11)先生は授業の中でクラスの人同士がよいところを互いに認め合う場面をつくっている」「(16)先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる」などの教師の受容的な関わり方も、自己有用感を高めるには有効です。

(2) クラスでの自己有用感を高める手立ての例

ここでは、高校生の「クラスでの自己有用感」を高めると考えられる事例を紹介します。

事例⑧ 個人面談を活用し、信頼関係を築く

H高等学校では、年間計画に5回の個人面談が位置付けられている。教師は生徒の学習面や生活面の悩み事などを、ゆったりと聞く構えで臨んでいる。面談を学習の支援の場としても活用し、試験の結果を振り返らせて、今、どのような学習をすべきかを具体的に考えさせ、予定を立てさせるようにしている。「しっかり勉強なさい」と言うよりも、話をよく聞いて、生徒自身に考えさせることで、自覚を促すようにしている。

その結果、信頼関係が築かれ教師との距離が近くなると、日常生活の中で生徒の方から話しかけてきたり、授業後に質問に来たりするようになった。職員室には、相談や質問に来た生徒が座れるように常時、椅子が用意されているので、いつも生徒がいる。

関連する質問: 「(16)先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる」

事例⑨ 一人一人の得意分野を把握し、生徒のよさを生かす

I 高等学校の I 教諭は、自校の生徒に対して、高い能力をもっているが控えめで自分から積極的に行動しない点に課題を感じていた。そこで、よいところを認め合う場面をつくるために、生徒の学習状況や生徒各自の特技などを把握しておき、様々な場面で生徒を生かそうと心掛けた。授業や行事の前に、生かしたい生徒に可能な限り声を掛けておく。「英語スピーチで困っている人がいるので、少し見てあげてね。」「体育祭に向けて、クラスの士気を盛り上げてね。」「模擬店の PR チラシは、イラストの得意なあなたにお願いしたいわ。」などである。

また、教諭自身が日々の生活の中で、あえて得意な生徒に頼る姿を見せるようにしている。すると、生徒の間でも「～については、〇〇さんに聞こう。」「～については、□□さんに頼もう。」など、互いに認め合う雰囲気がつくられてきた。また、活動の中心となる生徒を補佐する生徒も現れてきている。このように、友達やクラスに貢献する場面をつくることで、生徒は存在感や自信を獲得していく。

関連する質問：「(05)クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している」

「(11)先生は授業の中でクラスの人同士がよいところを互いに認め合う場面をついている」

事例⑩ 総合的な学習の時間と文化祭を関連づけて達成感を味わわせる

J 高等学校の第 1 学年では、総合的な学習の時間に各クラスでテーマを決めて研究を進め、文化祭でステージ発表をしている。テーマと研究の内容を決め、クラスとしての研究計画を立てる段階では、担任が少しリードしたが、内容が決まりグループで分担して調べる段階に入ってから、担任は見守ることに徹した。

クラス内での中間発表を行い、グループごとにさらに詳しく調べること、分かりやすく伝えるために準備する資料などについて検討をした。中間発表により、クラスの研究におけるグループ相互のつながりが意識されるようになった。担任として目配りをした点は、一人一人に役目をもたせることであった。全員が何らかの形で研究発表に関わったため、文化祭の一週間前には意欲の高まりが見られた。

長い期間を掛けて取り組んだことで、生徒が自信をもって発表している様子が見られた。上級生の「オー」「すごい」などの声とともに、大きな拍手をもらい成功裏に終わった。何より、自分たちが「やり遂げることができた」という達成感が、自分を価値ある存在と思うことにつながっている。

関連する質問：「(18)学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある」

【参 考】

◇先生との関係における自己有用感を高める手がかり

高校生の「先生との関係における自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」は表 2.8 のとおりです。

表 2.8 高校生の「先生との関係における自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」

| 高校生 | 質問3の質問項目 (No) |
|-----|--|
| 1位 | (15)先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる |
| 2位 | (14)先生の方からわたしに話しかけてくれる |
| 3位 | (16)先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる |
| 4位 | (12)先生は授業の中でクラスの人がやりとげまで見守ってくれる |
| 5位 | (06)先生はわたしたちに目標を決めさせて取り組ませている |
| 6位 | (11)先生は授業の中でクラスの人同士がよいところを互いに認め合う場面をつくっている |
| 7位 | (07)先生はわたしたちに計画を立てさせて取り組ませている |
| 8位 | (22)学校では先生同士が協力している |
| 9位 | (08)先生はみんながよりよく学校生活がおくれるように話し合いの時間をとっている |
| 10位 | (18)学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある |

日常の生活や授業での様々な働きかけが、「先生との関係における自己有用感」を高めていることが分かります。自己有用感を高めるためには、相談したいときに相談できる受容的な教師の姿勢が有効だと考えられます。進路選択の時期にある高校生にとっては、目標や計画を立てさせ、適時に声をかけてくれる教師の下で、「先生との関係における自己有用感」が高まるものと考えられます。

◇家庭での自己有用感を高める手がかり

高校生の「家庭での自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」は表 2.9 のとおりです。

表 2.9 高校生の「家庭での自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」

| 高校生 | 質問3の質問項目 (No) |
|-----|-----------------------------------|
| 1位 | (28)家の方は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる |
| 2位 | (27)家の方は大切なことを守らないときにはきびしくしかってくれる |
| 3位 | (24)家の方はわたしと将来のことについて話をする |
| 4位 | (02)友だちは話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる |
| 5位 | (23)家の方はわたしに時間を守ることが大切だと言う |
| 6位 | (26)家の方は学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる |

※網掛の項目は、間接的に関係していると考えられるもの

中学生と同様に高校生においても、家族が、学習や進路について関心をもつこと、優しさと厳しさの両面を備えて接することが、「家庭での自己有用感」を高めています。また、友達との関係が、家庭での自己有用感に影響を与えることも分かります。